

釧路空しゅう

愛国小学校
6年

依田

彩花里

〈きっかけ〉

おなさんは釧路空しゅうについて知っていましたか。私は自由研究をするまで釧路に空しゅうが起きたことも知りませんでした。夏休みに、沖縄のひめゆりの塔に行。たことで戦争のこわさを知りました。母から、自分の住んでいる釧路でも昔空しゅうがあったことを聞き、調べて見たいと思いました。

〈研究の方法〉

・本、インターネット、新聞
・辞典参加、インタビュー



〈わかったこと〉

釧路空しゅうは1945年7月14日～15日にアメリカ軍による空しゅうで死者192名、負傷者500名以上をだし、6000名以上の方が家を失いました。釧路空しゅうは北海道空しゅうと呼ばれる空しゅうの1つで、この2日間全道各地が被害を受け、その範囲は約80市町村にのびります。



なぜ、釧路はねらわれたのか？

釧路空しゅうが起きたのは、終戦直前でした。アメリカ軍は、6月に沖縄で地上戦を行い、日本をててい的に弱らせる作戦を考えました。その一つが釧路空しゅうです。アメリカ軍の目的は2つありました。

1つ目は、日本の戦力をそぐことです。本当は、道内の大きな町がねられる予定でしたが、7月14日と15日は全道的に天気が悪く、海ぞいの釧路が標的になりました。

2つ目は、人々にさしゅうふを与えることで日本に戦争を続ける気持ちを無くさせることです。そのために、アメリカ軍は一般市民を無差別攻撃しました。

釧路空しゅうでは、
一般市民がねられました！

佐藤孝子さん

1939年生まれ、空しゅうを体験した時は小学1年生だった。自宅のとなりの建物がこわされ、たくさんの方が亡くなった。今でも覚えていて、おなさんのお父さんは、戦時中から機銃のうけつけを受け、畑の中に逃げた時、戦時中の機銃の音が、おなさんには、とても怖かった。それくらい飛行機が低く飛ぶ、人々におそい感じが、いたことがわかりました。



当時、小学1年生だった

佐藤孝子さんにインタビュー

〈研究のまとめ〉

ここにあった悲しみと苦しみを
永久に語りつがねばならぬ

これは、栄町公園にある『戦災記念碑』に書かれている文です。この文には、あの日に起きたことを永久に語りついでいきたいと思いますという願いが込められています。

インタビューの中でも、孝子さんは戦争は二度と起こしてはいけないと言っていました。

戦争を起こさないためには、多くの人に戦争のこわさや悲惨さを知ってもらう必要があります。この研究がたくさんの人に読まれ、一人でも多くの人に平和について考えるきっかけとな。てほしいです。



141機の戦時中機銃が飛んで、空が真黒におおわれたそうです。

②空しゅうが起きる前の釧路はどんな様子でしたか。

- ・にぎやかだった。ゆうかくもあった。
- ・南大通が1番さかえていた。
- ・時々アメリカ軍からの機銃のうけつけがあったけど、あまり戦争は感じなかった。
- ・グラウンドに防空壕があった。

③空しゅうが起きたあとどんなことがありましたか。

- ・大きな建物がこわされた。
- ・かけの上に病院があり、たにかにけが人や亡くなった人などを乗せてけがを運んだ。
- ・物が少なくなった。
- ・南大通りの自宅がこわされたので、つるが岱に引いた。

①空しゅうが起きたときは何をしていましたか。

- ・6才(小学1年生)
- ・学校が始まる前(朝)で南大通の自宅にいた。
- ・飛行機がたくさん飛んできて初めは日本の飛行機が練習していると思った。



釧路空しゅうで飛んできた戦時中機銃。グラマンF6戦時中機銃。



④空しゅうが終わったあとどのように復興しましたか。

- ・復興は早か。た。
- ・自分たちで町をつくり直した。
- ・10年ほど戦争のあとがなくなった。

⑤私たちに伝えたいことやしてほしいことはありますか。

- ・自分の命を大切にしてください。
- ・戦争は二度と起こしてはいけない。
- ・釧路も空しゅうを受け戦争に関係のないたくさんの方が被害にあったことを多くの人に知ってほしい。

〈参考にした資料〉

・北海道空しゅう(画地蔵-1/北海道新聞社)
・あの子たちがいた七月(画地蔵-1)/共同文化社

・あの日のことを伝えたい(加藤忠史)
・お話し「釧路空しゅう」(加藤忠史著黒木祐子)/北海道新聞社組合釧路市支部会資料サークル